

# しまなみ

尾道市立市民病院広報誌

第19号

発行日：平成23年10月

〒722-8503  
尾道市新高山3丁目1170-177  
tel:0848-47-1155  
fax:0848-47-1004  
<http://www.onomichi-hospital.jp/>

## 尾道市立市民病院理念

尾道市立市民病院は、信頼される安全で  
質の高い医療を提供し、市民の皆さまの健康を守ります。



## ごあいさつ

酷暑の夏も峠を越し、さわやかな秋の到来が待ち望まれます。4月から副院長兼統括診療部長を拝命しました麻酔科・突沖です。東日本大震災から半年が経過しましたが、津波の被害の甚大さと、原発事故による放射能汚染の深刻さから、復興は未だ目途がたたず、避難生活を余儀なくされている被災者の皆様のご苦勞は計り知れないものがあると思います。それに加えて連日の猛暑日・熱帯夜・ゲリラ豪雨など、自然の猛威に翻弄され、想定外、未曾有と言い訳しか聞こえない無策振りは、当院の危機管理においても他山の石としなければならないところで

尾道市立市民病院では、10月からの院外処方に向けて本嶋薬局長を中心にプロジェクトチームが関係各方面と調整中です。医薬分業と薬剤師の病棟業務へのシフトを目的にしておりますので、関係各位のご理解とご協力をお願いいたします。

また来年3月の病院機能評価受審に向けて山田副院長兼看護部長を中心に各部署での取り組みが始まっております。機能評価を受けることで病院の現状を把握し、よりよい環境の整備に利用できることが期待されています。日常診療業務に加えて一層の負担が加わりますが、病院職員全員の協力の下に達成したいと思います。

全国的な医師不足、看護師不足等で労働環境は厳しい現状ではありますが、当院の麻酔科には明るい話題がありました。大西藍先生、真鍋素子先生の2名の先生方に勤務を始めていただいています。お二人ともご主人が今年4月からそれぞれ麻酔科、整形外科に勤務されており、子育てに奮闘中のママさん麻酔科医です。お二人とも明るいキャラクターで、すぐにスタッフとも打ち解けて、いい雰囲気を作り出していただいています。育児休暇中にもかかわらず、時間をやりくりしていただいております。診療に関する知識・技術は空白期間も短いため、リハビリも必要なく、即戦力として麻酔科にとっては大きな力になっています。

医師不足を補うひとつの方策として女性医師の職場復帰が必要なことは明白であり、院内保育や短時間勤務等の環境整備が重要なことはいままでもありませんが、お二人の活躍が今後の女性医師の力を十分に発揮していただくための先例となることを期待しています。当院の基本方針でもある「職員に優しい職場環境の実現」が広がれば、医師のみならず、看護師を始め全てのスタッフが働きやすい職場になり、病院の活性化につながることを期待されます。

副院長兼統括診療部長 突沖 満則

## 国際学会に参加・発表しました



外科診療科長  
川真田 修 医師

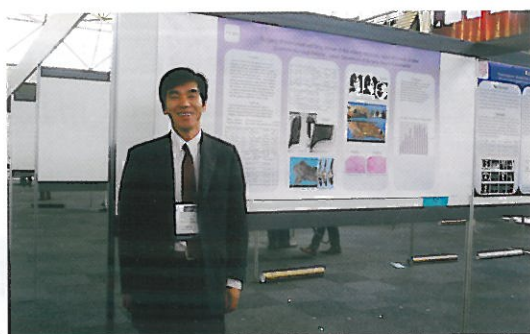
今年の7月3日から7日までオランダのアムステルダムで開催された第14回世界肺癌学会に出席、ポスター発表してきました。発表演題は Surgery of non-small cell lung cancer in the elderly especially aged 85 years or older で、内容は当院で手術した85歳以上の非小細胞肺癌の患者さんは全例生存中で、再発もしていないことから、85歳以上の患者さんでも症例を選択すれば手術によって長期生存が期待できるというものでした。【写真1】は発表ポスター前での記念撮影です。会場はアムステルダム郊外にあるRAI国際展示場で市内中心部からは路面電車で移動します。非常に広い敷地の施設で【写真2】はその入り口で撮影しています。

【写真3】はポスター会場入り口で撮影しており、今回の演題総数は約1900題でした。今回海外の国際学会で発表しようと考えたきっかけは、昨年京都で中皮腫の国際学会が開催され、そこに座長と演者として参加し国際学会の楽しさと出席する必要性を感じたことでした。尾道という地方の公的病院であっても世界に情報を発信し医療水準を世界と比較する必要があると痛感しています。今回だけでなく今後も積極的に世界に情報を発信していきたいと考えています。

さてオランダといえば風車とチューリップが有名ですが、実はレンブラント・ゴッホ・フェルメールなどの有名な画家が生まれた国としても知られています。多数の名画が所蔵されており、今回は学会の空き時間を利用してアムステルダム国立美術館、ゴッホ美術館、マウリッツハウス王立美術館を訪ね絵画鑑賞を満喫してきました。【写真4】はマウリッツハウス王立美術館（ハーグ）の前でのスナップです。日本でも海外作品が展覧会で鑑賞可能で、今回訪れた美術館の所蔵作品も何点かは日本で鑑賞したこと

のある作品でした。しかし、日本は湿度の高い国であるため、密閉された窓の無い空間で人工の光で鑑賞しないといけませんが、ヨーロッパは湿度が低く、気温も30度を越えることがないため窓から差し込む自然の光で鑑賞することができました。色彩の違いは明白で、日本で見たよりも数倍すばらしい絵に感動しました。異文化に触れるすばらしさを体験できるのも国際学会の魅力であると再確認しました。

1週間という長期出張を快く送り出していたいただいた職員の皆様に感謝しております。



【写真1】



【写真2】



【写真3】



【写真4】

## 世界肺癌学会に参加して



運河前にて

外科外来

安保 苗美 看護師 松本 千晶 看護師

昨年川真田先生に、世界肺癌学会に参加してみないかと声をかけていただき、多くのスタッフや先生方の協力を得て、7月にアムステルダムへ行ってきました。

学会は5日間開催しており、私達の発表は4日目でした。学会に参加して一番に感じたのは「言葉の壁」でした。発表のポスターセッションではどんな質問がくるのか不安で、積極的に声をかけることができませんでした。

ナースセッションでは「肺癌臨床専門看護師」の話についてとりあげられていました。アメリカ・イギリス・オランダなどでは専門看護師が肺癌の診断とステージングを行い、治療方針は外科医師・内科医師と癌専門看護師が関わり決定しています。看護師は医師と同様に患者を評価する責任も負っており、果たす役割は大きいと感じました。

日本には肺癌専門看護師制度がなく今現在の認定看護師の分野にも肺癌の領域がないのが現状ですが、各国にこの制度が出来ることが望ましいと話されていました。将来的に、日本にも肺癌専門看護師もしくは認定看護師制度ができれば、世界肺癌学会での標準治療や活動に参加し、情報交換をすることで看護のレベルを上げていくことができると感じました。また各国により専門看護師制度が違うので、看護師教育システムの構築をどのようにするかが問題定義されていました。看護師の教育が世界的に同じレベルになることが望ましいですが、日本だけで

はなく他国も言葉の壁があり、標準化に達するにはまだ時間を要するだろうと感じました。

今回の学会参加で他国の看護の状況を知ることができ、貴重な経験となりました。

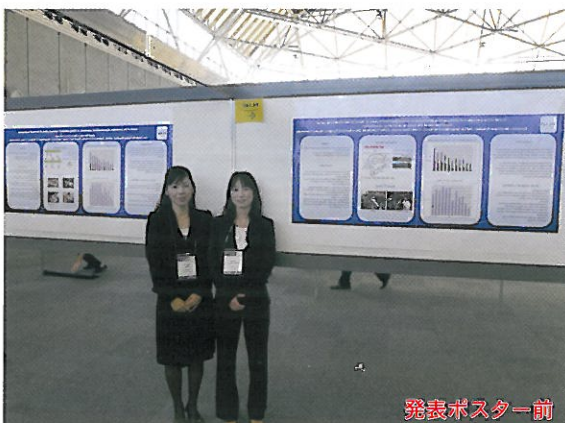
オランダはチューリップは終わっており、日本から持ち帰り根付いたとされる紫陽花があちこちで咲いていました。サマータイムだったので夜は11時ごろまで明るく不思議な感覚でした。緑も多く、レンガ調の建物・石畳・運河に囲まれた町並みが情緒あり、メルヘンチックでした。



オランダの修道院



運河クルーズ(オフショナルツアー)



発表ポスター前

## 「ビッグパレットふくしま」での支援活動に参加して



医事課長  
松谷 勝也

私たちは、6月15日から19日までの5日間、広島県医療救護班第22班として、福島県郡山市にある避難所「ビッグパレットふくしま」で支援活動を行いました。

ビッグパレットは、富岡町と川内村の住民が中心で、津波による被害に加え、原発によって避難を余儀なくされている方が多く集まった避難所でした。直後の避難者は3,000人近くいたとも言われていましたが、この時点では800人ほどに減少（それでも大きな避難所である）していました。

第22班は当院の医師1名、薬剤師1名、看護師2名、事務1名にみつぎ総合病院の作業療法士1名と熊野町訪問看護ステーションの看護師1名を加えた7名でチームを編成し、地元の医療従事者や他県（福岡県、埼玉県、神奈川県等）から派遣されている保健師、薬剤師等による支援チームの方たちと連携を取りながら業務にあたりました。

医師はビッグパレット内の救護所での診療活動を、薬剤師は救護所内や避難所内で服薬指導を中心に行いました。また、看護師及び作業療法士は、

避難所内のラウンドのほか、6月15日からスタートした「生活リハビリ自立支援事業」の中心的な役割を担い、仮設住宅の設備等をチェックしながら、独居高齢者等が仮設住宅で生活していくための訓練や支援を行いました。

6月18日に震災100日目を迎え、第22班活動期間中の救護所の受診者は1日15人程度に減少しており、ビッグパレットにおける支援チームに対するニーズは、医療支援から避難者を仮設住宅等へ移っていただくための自立支援へと変化していました。ビッグパレットの隣接地に仮設住宅は建てられているものの、仮設住宅に入れば食事や医療面など全てを自分で行わなければならないため、そのため、現状の避難所生活（食事、医療等での費用負担なし）の方がよいと思われる方も一部にはおられ、仮設住宅へ移った後も、継続して支援していく必要性を感じました。

今回の支援活動を通じて、改めてチーム医療の重要性や地域医療の大切さを認識させられたとともに、直接、被災者の方々と関わったことや他の支援チームと連携したことなどの貴重な経験は、今後の活動に必ず役立つものと信じています。

この地域には、家屋や農地などの被害のほか、放射線による健康被害の問題などもありますが、避難をされている皆さんが、一日も早く安心して安全な日常生活を取り戻し、健やかに暮らすことができるよう願っています。



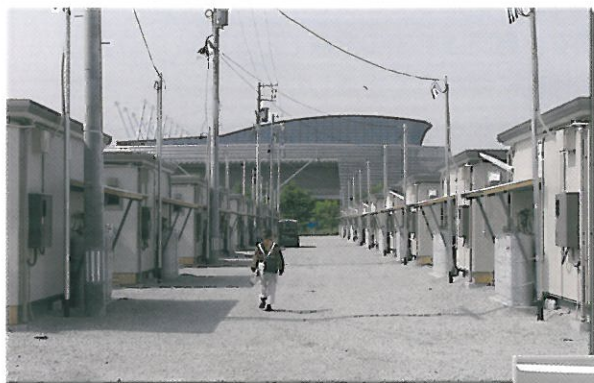
【広島県医療救護班第22班参加者】

【上段左から】

事務：松谷勝也  
熊野町訪問看護ステーション  
看護師：坂本しげみ  
みつぎ総合病院  
作業療法士：大野木英二  
薬剤師：堀井克彦

【下段左から】

看護師：竹内恵美  
医師：合田雄二  
看護師：中石華代子



【仮設住宅から見たビッグパレット】



【朝のミーティング風景】



【診療活動・服薬指導】



【高齢者の生活訓練及び支援活動】



【ビッグパレット内 訪問活動】



【ビッグパレット内での生活風景】

紹介・ごあいさつ



呼吸器内科  
畝川 芳彦 医師

平成23年7月より呼吸器内科に勤務させていただいています。電子カルテ、院内ネットワーク及びDPC等の診療システムに十分順応できておらず、ご迷惑を多々お掛けしています。宮田院長や巻幡先生をはじめ、皆様方のご支援・ご指導をいただきながら、診療業務を進めていきたいと考えておりますので宜しくお願いいたします。プロフィールを以下に略記します。

〈生活歴・経歴〉

岡山市の生まれで医師免許を得てから随分経ちます。岡山以外では、赴任順に高知、神戸、松山、東京、松山、山口宇部の病院や研

究施設に勤務してきました。広島県は初めてです。専門は肺癌の診療で臨床試験や治験に積極的に関わってきました。新規薬剤の承認・審査行政との二足のわらじを履いたこともあります。

〈家族〉

妻と二男。男の子二人はいずれも手元を離れています。

〈趣味〉

無趣味と言ってもよいかもしれません。パソコンとかゴルフに夢中になったこともありますが、意外にあっさり熱が冷めたようです。但し、スポーツジムにはここ15年間程継続して通っています。

〈好きな食べ物など〉

何でも食べます。最近は和食を口にする事が多いようです。お酒も好きです。日本酒党には瀬祭(山口県玖珂)や小富士(愛媛県北条)をお奨めしてみたいと思います。

行事紹介



【初期消火活動】



【患者さん避難風景】

行事案内  
【防火訓練】

7月28日約50名の職員で、防火訓練を行いました。もしもの時を想定して、緊張した雰囲気の中本番さながらに取り組み、訓練の重要性和防火意識を改めて見直しました。



【避難誘導】



【消火器を使った消火訓練】

## 紹介・ごあいさつ



糖尿病看護認定看護師  
古賀 純子

糖尿病は生涯にわたり治療を続けていかなければならない慢性疾患であり、食事療法、運動療法、薬物療法など多岐にわたる治療が行われています。また、治療を継続させるためには合併症の発症を防ぐことが重要で、患者さんの厳密な自己管理が必要となります。糖尿病患者さんの増加や糖尿病専門医の不足、増大する糖尿病医療費への対策などから、糖尿病に専門性の高い医療者の育成が求められ、2002年に糖尿病看護認定看護師が誕生しました。糖尿病看護認定看護師の特化技術は、3つあり、1つ目は「血糖パターンマネジメント」で、対象をアセスメントして全人的に理解し、血糖管理に向けての支援を患者さんと共に行う能力を必要とします。2つ目は「フットケア技術」で、糖尿病足病変予防のための自己管理への指導技術が求められます。3つ目は「糖尿病ケアシステム立案技術」で、糖尿病発症予防に向けての支援を行う能力が求められます。それらの特化技術が現場で生かされるよう、また、糖尿病療養指導士や糖尿病ケアチームのスタッフと共に、糖尿病看護の専門性を活かし、より質の高い看護技術を目指して協働していきたいと思っています。



集中ケア認定看護師  
檀上 恵美子

私は、今年度集中ケア認定看護師の資格を取得しました。集中ケア認定看護師の役割は、過大侵襲により生命の危機的状況にある患者さんに対して、病態変化の予測をして重症化を回避し二次的障害の程度を最小限にして早期回復への援助を行うことです。急性期における看護ケアは患者さんの予後を大きく左右すると考えています。患者さんに身体的、精神的な障害がなく社会復帰が出来るよう、患者さんの回復過程の援助を行いたいと思います。また、身体的苦痛のみでなく精神的苦痛も抱えている患者さんおよびご家族に対し、言葉にならない苦痛を感じ取れる看護師でありたいと思います。

現在、呼吸ケアサポートチームにおいて、人工呼吸器が装着された患者さんに対し安全で安楽な治療の提供と早期離床に向けた介入が行えるよう取り組んでいます。今後は、病棟での看護実践や院内教育を通して院内の看護の質の向上に努めていきたいと思っています。



緩和ケア認定看護師  
黒河 香織

私は、集学的がん治療センターに所属し、がん看護の実践を行っています。また、緩和ケアチームの一員として活動しています。

緩和ケアは、がんと診断された時点での早期から必要とされます。集学的がん治療センターでは、疾患の早期から患者や家族と関わること

ができるため、早い時期から信頼関係を築き、患者のQOLを高めるという視点でセルフケアを考えていくことが大切だと思います。そして、看護師が患者に関心を寄せ、共にいることが、患者の希望を支えるケアにつながると考えています。

緩和ケア認定看護師は、がん患者の身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな苦痛を科学的根拠に基づきアセスメントし、実践する役割があります。どのような病期にあっても、患者が体験している辛い症状を緩和し、QOLを重視した生き方を援助していきたいと考えています。スタッフと一緒に看護ケアを実践し、考えていくことで、私自身も成長していきたいと思っています。

科別診療割表

診療受付時間 午前8時30分から午前11時まで  
 休日 土曜日・日曜日・祝日・12月29日から翌年1月3日

区分科別	曜日	月	火	水	木	金	備考
内科	1 診	山脇 泰秀 内科全般	山脇 泰秀 内科全般	藤野 寿幸 内科全般	山脇 泰秀 内科全般	宮田 明 内科全般	
	2 診	藤野 寿幸 内分泌・代謝	水戸川 剛秀 内科全般	開原 正展 腎・高血圧	水戸川 剛秀 内科全般	藤野 寿幸 内科全般	
	3 診	城戸 雄一 糖尿病	開原 正展 腎・高血圧	高取 優二 腎臓内科	高取 優二 腎臓内科	当真 貴志雄 内科全般	
	4 診				城戸 雄一 糖尿病	山脇 泰秀 パーキンソン病	
	5 診				藤野 寿幸 糖尿病		
総合診療科	1 診	勝山 隆行	宮田 明	甲斐 華恵		岩戸 真紀	
	2 診		橋本 洋夫				リュウマチ・膠原病
呼吸器内科	診察	巻幡 清	畷川 芳彦	紹介患者のみ※	畷川 芳彦	巻幡 清	※気管支鏡検査
消化器内科	診察	甲斐 華恵	前島 玲二郎	河合 良成	河合 良成	前島 玲二郎	
循環器内科	診察	小林 博夫	圓光 賢希	高村 俊行	高村 俊行	小林 博夫	PM検査
神経内科	診察		岡本 美由紀	松山 善次郎		逸見 祥司	要予約
外科	1 診	中井 肇 肝・胆・膵・消化器	宇田 征史 消化器・鏡視下	宇田 征史 外科全般	中井 肇 肝・胆・膵・消化器	村田 年弘 外科全般	
	2 診	松本 朝子 外科全般	上塚 大一 消化器・ヘルニア	上塚 大一 肛門外科	川真田 修 呼吸器	川真田 修 乳腺・食道	
整形外科	1 診	廣岡孝彦 (予約のみ)	藤井 淳一	廣岡 孝彦	藤井 淳一	廣岡 孝彦	
	2 診	藤井 淳一	河合 亮	川上 直明	真鍋 博規	川上 直明	
	3 診	川上 直明	装 具	真鍋 博規		河合/藤井 ※	※ 河合1・3週、藤井2・4週
小児科	1 診	井上 直樹	井上 直樹	井上 直樹	井上 直樹	井上 直樹	月1回 林 優子 偶数月第4金曜日 脇 研自
脳神経外科	1 診	土本 正治	合田 雄二	岩戸 英仁	土本 正治	合田 雄二	
	2 診	合田 雄二					月曜日のみ2診
産婦人科	新患再来 妊婦健診	大村 裕一	村上 優子 大村 裕一	大村 裕一	大村 裕一	大村 裕一	9時30分より診察
皮膚科	診察	上田 武滋	上田 武滋	上田 武滋	上田 武滋	上田 武滋	
泌尿器科	1 診	大枝 忠史	堀川 雄平	大枝 忠史	野崎 邦浩	大枝 忠史	
	2 診	野崎 邦浩	大枝 忠史	野崎/堀川 ※	大枝 忠史	堀川 雄平	※隔週交代
耳鼻いんこう科	診察	竹田 雅聖	竹田 雅聖	竹田 雅聖	竹田 雅聖	竹田 雅聖	
眼科	診察	諫見 久恵	諫見 久恵	諫見 久恵	手 術	諫見 久恵	
放射線科	画像診断	三船 啓文 岸 亮太郎	三船 啓文 岸 亮太郎	三船 啓文 岸 亮太郎	三船 啓文 岸 亮太郎	三船 啓文 岸 亮太郎	
	治療		勝井 邦彰 ※			勝井 邦彰 ※	※毎週火曜AM・金曜PM
歯科・歯科口腔外科		吉田 明弘	吉田 明弘	手 術	吉田 明弘	吉田 明弘	
内 科	検 診		検 診	検 診	検 診	検 診	
循環器内科			ペースメーカー外来				14:00から
循環器内科検査	心カテ		経食エコー	心カテ	経食エコー	心カテ	13:00から17:00
外科	手 術		検 査	手 術	検 査	手 術	
整形外科	検 査		手 術	手 術	検 査	手 術	
消化器内科	検 査		検 査	検 査	検 査	検 査	内視鏡検査
小児科			乳児検診	予防接種	慢性疾患 予約外来	慢性疾患 予約外来	月～金 脳波検査
脳神経外科	検 査		手 術	検 査	手 術	検 査	
産婦人科			母乳外来 1ヶ月検診 手 術	母親学級 2・3・4週のみ※	母乳外来 1週間検診 手 術	母乳外来 1週間検診	
皮膚科	手 術		検 査	手 術	検 査	検 査	
泌尿器科	手 術		手 術	検 査	手 術	予約外来 検 査	
耳鼻いんこう科	手 術		検 査	睡眠時無呼吸外来	手 術	検 査	
眼科	検 査		検 査	検 査	検 査	検 査	
歯科・歯科口腔外科	手 術		手 術	口腔外科	検 査	口腔外科	予約診療
放射線科	画像診断		画像診断 血管造影	画像診断	画像診断 血管造影	画像診断 (勝井邦彰)	予約診療
専門外来	禁煙外来(上田) 乳腺外来(松岡) 乳腺外来(本後)	血管診療検査 (血管診療センター) ペースメーカー外来 母乳外来・1ヶ月検診 黄斑外来(諫見)	睡眠時無呼吸外来 母親学級 物忘れ外来(松山)	血管診療検査 (血管診療センター) 母乳外来 1週間検診	1週間検診 乳腺外来(増村)		予約制

案内図

